

議会運営委員会行政視察報告書

金子 裕美

○静岡県藤枝市

決算審査特別委員会での事業評価と各常任委員会での予算への提言について

【所見】

藤枝市では、令和5年5月より予算・決算を常任委員会化している。予算委員会は「議長を除く全議員」が所属、決算委員会は半数の11名が1年交代で所属している。監査委員は決算委員会には加わっていない。審査期間は予算5日間、決算4日間で、最終日に総括質疑を行っている。

・決算常任委員会

決算常任委員会は決算審査を年間の総括として重視すると同時に来年度予算に反映させるため、6月から動き出し、執行部から継続事業1001事業（令和4年度）の「全事業総点検シート」を受け取る。シートは元々執行部が事業全点検を実施しているもので、議会向けに特別に作ったものではない。

その中から、議会として集中審査を行う14事業（2人以上が選んだ事業など）を7月下旬に抽出、それに関する審査用調書を8月下旬に所管課から受け取り、9月の決算審査に臨む。

決算審査は常任委員会毎に、通常の審査と同時に抽出した14事業も審査する。3日目の審査終了後に、4日目の総括質疑をどうするか各委員で協議して執行部に通告している。

審査後に14事業に対して各委員は意見と「拡大・縮小・継続・その他」を提出し、10月上旬に正副議長が調書を取りまとめ、その後の決算常任委員会で全委員の意見が一致した事業（14事業中11事業であった）の事業評価書を執行部に提出する。同時に、常任委員会でも提言書を提出する。

・予算委員会

議長を除く全議員が所属する。第1審査会と第2審査会に分かれ、日を違えて3日間の審査を行い、4日目は各審査会長への報告や情報共有をし、最終日での締めくくり質疑の抽出を行う。執行部は2つの委員会から2回審査を受けることになる。

・ 3 常任委員会による現年度予算チェック

現年度の予算のチェックは常任委員会で行っている。6月に主要事業に関する質疑、11月に予算執行状況の調書の提出をもとに議論している。

以上が藤枝の取り組みであった。議会のチェック機能の強化という視点での議会改革が進んでおり、年間のサイクルがイメージできて大変参考になった。また、専門的に深い議論をするためには、委員会単位で分けた方が良いと感じた。今後の足利市議会の予算・決算審査の参考にしていきたい。

○愛知県一宮市

議場の大型スクリーンの活用について

【所見】

一宮市では平成26年から新庁舎となったが、その建設に合わせて議場に大型スクリーンを導入している。議場は傍聴席が上の階に設置されており、傍聴席から議場内が見えにくいため、スクリーンで本会議の様子を確認しやすくなっている。



議員が一般質問を行うとき、通告の「PC使用欄」にチェックを入れることで、質問当日にモニターを利用することができる。議員のパソコンやタブレットを接続して投影する。データに関しては、使用する画像や写真等の著作権及び肖像権が許可されたものを使用するようお願いしているとともに、スライド試写日を設けて内容のチェックをしている。しかしながら、試写は必須ではないため、議員以外によるチェックをされていない画像等が流れる可能性もあり、個人的には内容チェックの必要性を感じた。

スクリーンは200インチ、投影機は大型で500万円程度するものであった。大型スクリーンの前に照明が設置されているため、スクリーンの画像が見えにくくなってしまおうという難点は運用後に気付いたようだ。また、スクリーンへの投影ということで、足利市のモニターと比べると色が薄く画像が荒く見えてしまうため、小さくても足利市のモニターは見やすいのではないかと感じた。足利市のモニターが小さくて遠くから見えにくいのなら、複数個所にモニターを配置することで、一宮市と同等もしくはより良い効果が出せるのではないかと感じた。